

# 塩 部 遺 跡

(朝日小学校構内)

—朝日小学校校舎建て替え工事に伴う発掘調査報告書—

2010

甲府市教育委員会

# 序

甲府市立朝日小学校が位置する塩部の地名は、水に塩気が含まれるので「塩部」といわれたと甲斐国志に記述があり、約800年前の京都醍醐寺の文献に「甲斐国巨摩郡塩戸庄」と記載がある古い地名です。近年の埋蔵文化財の発掘調査では、遺跡範囲の中央部から約2000年前の弥生時代の集落が確認され、さらに古墳時代、平安時代、中世の遺構・遺物が発見されています。

今回の調査区である朝日小学校の場所は、塩部遺跡の北東辺にあたりますが、東側を流れる相川を境として甲府城下町遺跡に接する土地です。近年発見された江戸時代前期の甲府城下町絵図の研究により、小学校北側の東西の通りが江戸時代初期の甲州道中であったことが解明されました。この絵図には一里塚と古三日市場の名前がみられ、江戸時代初期は交通の要所であったものと考えられます。

発掘調査では、平安時代を中心とする井戸・溝などの遺構と、縄文時代から中世までの遺物が出土し、朝日小学校の歴史の一端が確認されました。また、朝日小学校5年生による郷土史学習の一端として、発掘現場の見学という貴重な機会に恵まれました。歴史を身近に体験し郷土の文化・歴史をよりよく理解する場として、今後学校教育・生涯学習教育の場として有効活用していただければ幸甚です。

末筆となりましたが、この度の発掘調査に際し、貴重な歴史遺産に対する深いご理解を賜り、ご支援・ご協力を頂いた関係各位に、感謝申し上げるとともに、衷心より厚くお礼申し上げます。

平成22年11月

甲府市教育委員会

教育長 長谷川 義高

## 例　　言

1. 本書は山梨県甲府市塩部一丁目4番1号における塩部遺跡（朝日小学校構内）の発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は学校建設に伴うものであり、工事主体者の甲府市教育委員会が主体となり実施した。調査の一部は同教育委員会より委託を受けた昭和測量株式会社が行った。
3. 調査担当は志村憲一（甲府市教育委員会文化振興課文化財主事）が担当した。本調査及び報告書作成業務に関しては、甲府市教育委員会文化振興課文化財主事志村憲一の指揮監督のもと、受託者の昭和測量株式会社文化財調査部高野高潔が担当した。
4. 発掘調査の期間及び面積は以下のとおりである。  
　試掘調査：期間 平成21年8月8日から同年8月11日、面積22m<sup>2</sup>  
　本調査：期間 平成22年2月22日から同年4月24日、面積430m<sup>2</sup>
5. 基準点測量は昭和測量株式会社が行った。測量成果は世界測地系とした。
6. 表土除去および埋め戻しに伴う建設機械の操作・運転は丸加工業有限会社が行った。
7. 発掘調査参加者  
　新谷和美、飯室恵子、菊島正博、小島健治、小林としみ、佐藤高正、竹野章、田中博之、中澤保、原田隆邦、原田みゆき、広瀬ありさ、松原静夫、村田勝利、望月明、望月太喜雄、渡辺麗子（五十音順、敬称略）
8. 本書の執筆と編集は、第1章第1節・2節、第4章第2節を志村憲一が担当し、その他を甲府市教育委員会の指導のもと高野高潔（昭和測量株式会社）が担当した。
9. 本書に係わる出土遺物、図面、写真及びその他の諸記録は、甲府市教育委員会が保管している。
10. 整理作業参加者 北野礼子、齋藤里美、山田忠、渡辺麗子（五十音順、敬称略）
11. 発掘調査及び報告書作成の過程でご指導ご協力を賜った機関、諸氏を以下に記して御礼申し上げる。  
　山梨県教育委員会学術文化財課、社会保険山梨病院、中山誠二、山本基礎工業株式会社（敬称略）

## 凡　　例

1. 本書に掲載した図3調査地の位置図は、大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000地形図甲府近傍七号「松嶋村」（明治42年10月鉄道補測発行）、八号「甲府」（明治43年1月鉄道補測発行）を使用して作成した。図4塩部遺跡周辺の遺跡分布図は、国土地理院発行（平成14年6月1日発行）の数値地図25000（地図画像）「甲府」所収「甲府北部」、「甲府」を使用して作成した。
2. 遺構平面図の座標値は平面直角座標系（世界測地系）第VII系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
3. 遺構断面図の土層色調及び遺物観察表中の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修2004『新版標準土色帖』（26版）に基づいて表記した。
4. 遺構、遺物図の縮尺は以下を基本とした。また、挿図中の尺度にも縮尺を付記した。  
　遺構：調査区全体1/160、溝平面1/80・セクション1/40、井戸1/20、ピット1/20  
　遺物：土器・土師器・須恵器・陶磁器1/3、石器2/3、木製品1/4
5. 本書に使用した記号及びスクリーントーンは以下のとおりである。  
　遺物：須恵器断面■ 陶器断面□ 黒色範囲■ 赤色範囲■ 細縞範囲■

## 目 次

### 第1章 調査概要

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	試掘調査	1
第3節	調査方法と経過	2

### 第2章 調査遺跡の環境

第1節	地理的歴史的環境	3
第2節	基本土層	6

### 第3章 遺構と遺物

(1)	溝	8
(2)	井戸	15
(3)	ピット	16
(4)	遺構外出土遺物	17

### 第4章 結語

第1節	遺構と遺物の検討	20
第2節	塩部遺跡における調査区	20
遺物観察表		21
写真図版		

## 挿 図 目 次

図1	試掘トレンチ出土遺物	1	図10	4号溝	11
図2	試掘トレンチ・本調査範囲位置	2	図11	4号溝出土遺物(1)	12
図3	調査地の位置	3	図12	4号溝出土遺物(2)	13
図4	塩部遺跡周辺の遺跡分布	5	図13	6号溝	14
図5	基本土層	6	図14	1号土坑・出土遺物	15
図6	調査区全体	7	図15	1号～5号ピット	16
図7	1号溝・出土遺物	8	図16	遺構外遺物出土位置	17
図8	2号溝・出土遺物	9	図17	遺構外出土遺物(1)	18
図9	3号溝・出土遺物	10	図18	遺構外出土遺物(2)	19

## 写真図版目次

図版1	調査区全景、1号～4号・6号溝、1号井戸
図版2	試掘出土遺物、1号～3号・4号溝(1)出土遺物
図版3	4号溝(2)出土遺物、1号井戸出土遺物
図版4	遺構外出土遺物

# 第1章 調査概要

## 第1節 調査に至る経緯

甲府市塩部一丁目4番1号地点の甲府市立朝日小学校構内の調査は、小学校校舎建て替えに伴い実施したものである。文化財保護法に基づき平成21年7月27日付けで甲府市長官島雅展より埋蔵文化財発掘の届出が提出された。その後山梨県教育委員会教育長より、教学文第1270号により周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知を受け、発掘調査を実施する運びとなった。

試掘調査は平成21年8月8日から同年8月11日にかけて、建物予定地6ヶ所にトレーニングを設定し試掘調査を実施した。調査の結果、建設予定地の東側3ヶ所のトレーニングから古墳・平安の土師器と中世の遺物が出土し、遺構が存在する可能性が強まつた。建設予定の建物は深度まで基礎が及ぶことから、遺構・遺物の保護を図ることは困難であると判断し、本調査を実施することとなつた。

本調査に際しては、事業主体者である甲府市教育委員会文化振興課の指導監督のもと、昭和測量株式会社に発掘調査業務を委託し、平成22年2月22日付けで両者の間で委託契約を締結し、同年2月22日から4月24日までの約2ヶ月間本調査を実施した。さらに発掘調査終了後、平成22年6月18日に発掘調査を行った上記業者に整理作業に関する委託契約を締結し、平成22年6月21日から同年11月19日までの期間、整理作業及び報告書作成業務を実施した。

なお今回の本調査の際は、総合学習の一環として同小学校5年生を対象とし、平成22年4月20日現場見学会を実施した。見学会は発掘現場の状況と発掘出土品を観察し、朝日小学校の古代の様相と学校周辺に広がる塩部遺跡の歴史について学習した。

## 第2節 試掘調査（図1・2、図版2）

試掘調査は建物予定地に幅1.5m、長さ2～3.4mのトレーニングを6ヶ所設定し、機械及び人力にて深さ0.9～1.9m掘削を行い、遺物包含層及び遺構の有無を確認した。建物予定地西側の1～3トレーニングの3地点は、土師器の小片が数点検出されたのみであり、各堆積層からは遺構は確認されなかつた。建物東側の4～6トレーニングの3地点に関しては、地表下0.7～1mより下層に位置する黒色粘質土層から、古墳・平安・中世の遺物が出土した。特に5トレーニングの地表下0.7m、6トレーニングの地表下1m地点に位置する第3層の黒色粘質土層からは、古墳時代の土師器が集中して検出されたことから、この5・6トレーニングを中心とした周辺に遺構が存在する可能性が強まり、本調査の対象地とした。

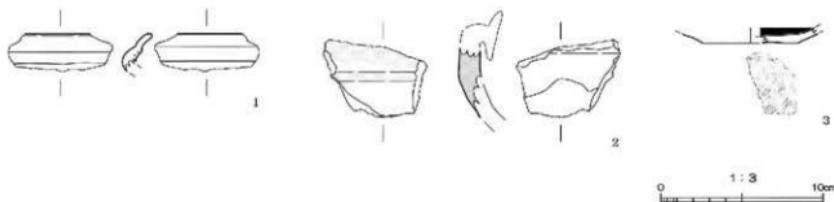


図1 試掘トレーニング出土遺物

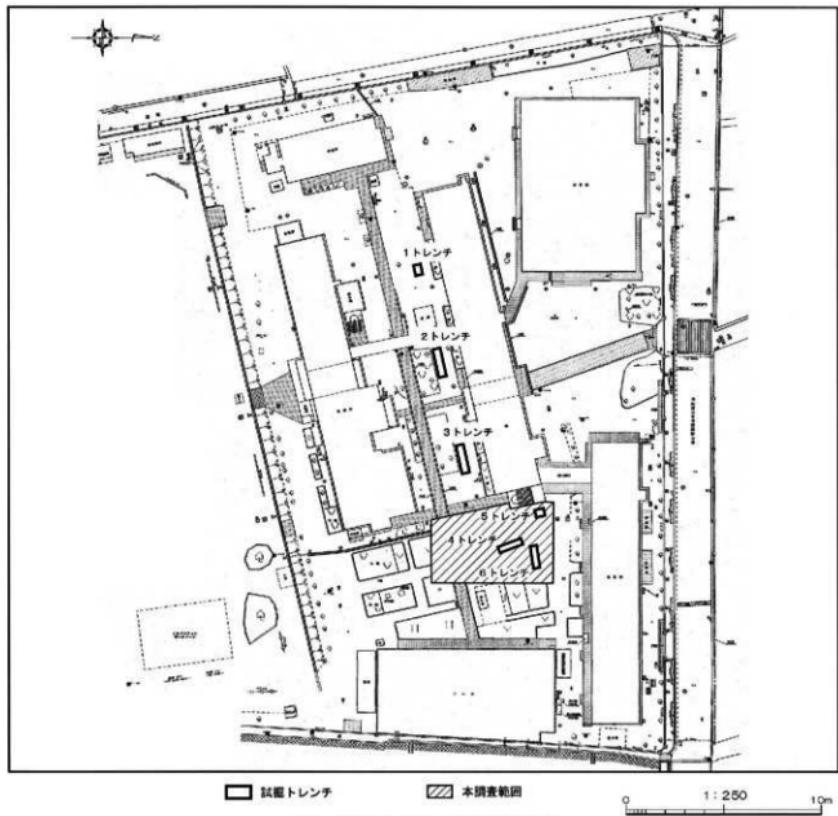


図2 試掘トレンチ・本調査範囲位置

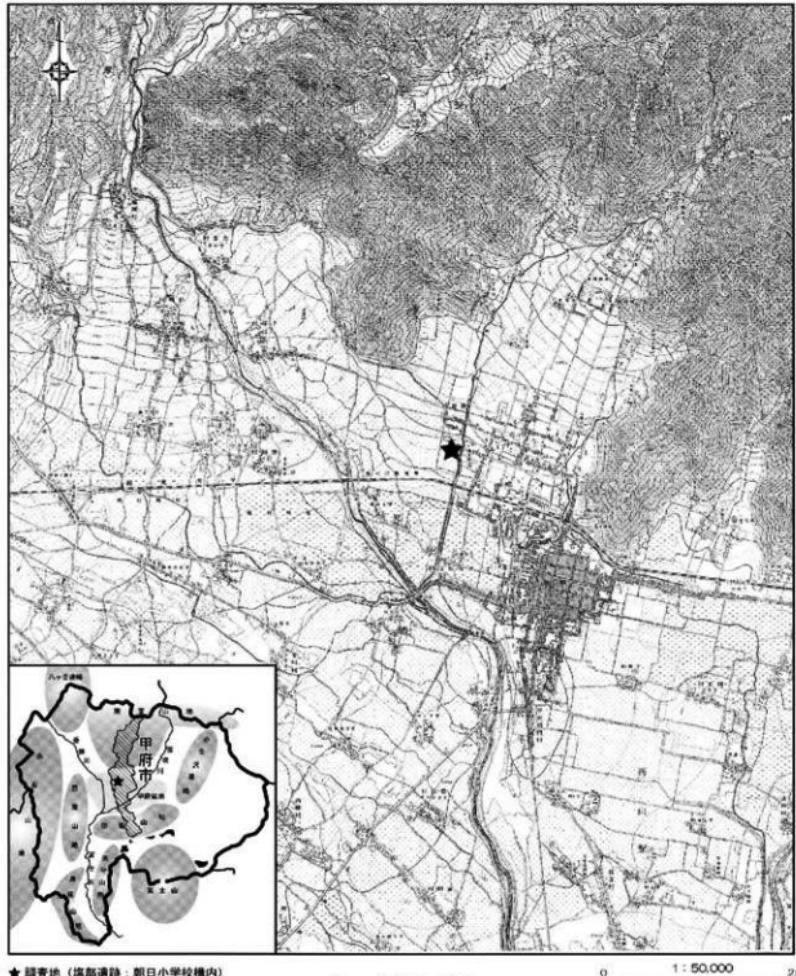
### 第3節 調査方法と経過

発掘調査は平成22年2月22日から同年4月24日まで実施した。2月25日に調査区の安全柵を設置し、3月1日から2日に重機による表土除去を行なった。3月3日から基準点測量を行ない、調査区にグリッドを設定して、人力による精査を開始した。グリッドは調査区北東隅を起点として4m方眼を設定し南北にアルファベット、東西に数字の名称をして「1Aグリッド」のように呼称した。遺構は検出順に番号を付した。なお5号溝は風倒木痕と判断し途中で欠番とした。遺構の位置、形状、土層断面はトータルステーションと手実測を併用して記録した。包含層及び遺構で検出された遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録した。小破片については各遺構又はグリッドの一括出土遺物として取り上げた。遺構、遺物の写真撮影は35mm判カメラ（カラーネガ）と一眼レフデジタルカメラを使用して実施した。4月20日に遺跡完掘状況の調査区全景写真を撮影した。4月21日から重機による埋め戻しを行ない、4月24日に安全柵の撤去を行なった。整理作業および報告書作成は平成22年6月21日から同年11月19日まで実施した。

## 第2章 調査遺跡の環境

### 第1節 地理的歴史的環境（図3・4）

調査対象の塩部遺跡は山梨県甲府市の中央部に位置し、甲府盆地の北縁にあたる。北方には関東山地の主要部である標高2,000～2,500m級の秩父山地がある。調査地点は秩父山地山中の太良峠の南方を源とする相川により形成された扇状地扇端部の緩傾斜面上に立地している。相川中流域の右岸に面し、標高は約280mである。



★ 調査地（塩部遺跡：朝日小学校構内）

図3 調査地の位置

0 1 : 50,000 2km

塩部遺跡の遺跡範囲は東西約500m、南北約700mの規模で周知されている。塩部遺跡では現在までにも別地点での発掘調査が実施されている。従前の報告ではまず県立甲府工業高校校庭出土土器として古墳時代の遺物が昭和43年の山本寿々雄氏の著作に見られる。平成6・7年に山梨県埋蔵文化財センターが調査した県立甲府工業高等学校改築に伴う発掘調査地点（2）では弥生時代～古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構・遺物が出土している。遺構は方形周溝墓、住居、用水路、旧河道などがある。平成13～14年に甲府市教育委員会が調査した「塩部町開国橋線」道路改良工事に伴う発掘調査地点（3）では主に弥生時代から古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。遺物には縄文土器も出土している。平成14～16年に甲府市教育委員会が調査した「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う発掘調査地点（4）では弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。平成20年に甲府市教育委員会が調査した店舗建設に伴う発掘調査地点（5）では弥生時代～平安時代の遺構遺物が出土している。遺構は住居、溝などがある。以上から塩部遺跡では縄文時代から人の活動が認められ、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代を通して集落が営まれていたといえる。

その後の中世では塩部郷と呼ばれ、平安時代末期の塩部郷の領主は武田有義であったとされている。有義の子有信以後は塩部氏の本拠地であったと推定されている。また文治二（1186）年の醍醐寺文書目録（醍醐雑事記）には「甲斐国巨摩郡塩部庄」がみえるが、詳細は不明とされる。

永正十六（1519）年武田信虎の拠点移転に伴い築かれた戦国期の武田城下町では、塩部遺跡は城下町の西の出入口付近に位置することとなる。

近世では塩部村と呼ばれ甲府城下町の西側に隣接している。文禄年間（1592～1596年）には塩部村民が甲府城下町内の上府中横沢町周辺へ移住させられ、村民の居住地が田畠から離されることになったが、天明年間（1781～1789年）に帰村が許されたとされている。帰村後の塩部村の集落は閑屋往還に沿って形成されている。以上のように塩部遺跡では平安時代以後も中世・近世を通して集落が営まれ、武田信虎の拠点移転以後は城下町に隣接する集落となっていったことがわかる。

次に、塩部遺跡周辺を時代を追って見ると、古くは旧石器時代の様子を伝えるものとして、相川の河床からナウマンゾウの臼歯の化石が出土している。続く縄文時代の遺跡として縁が丘一丁目遺跡（6）、宝町遺跡（7）、榎田遺跡（8）から縄文時代前期の遺物が出土している。上石田遺跡（9）では縄文時代中期の遺構が確認されている。その他にも縄文時代の遺跡として縁が丘二丁目遺跡（10）、金塚西遺跡（11）、音羽遺跡（12）、西大阪A遺跡（13）、西河原遺跡（14）、宮北遺跡（15）、食糧工場遺跡（16）、居村村上遺跡（17）などが知られている。

弥生時代から古墳時代の遺跡としては榎田遺跡（8）、音羽遺跡（12）、富士見遺跡（18）、青沼遺跡（19）、平石遺跡（20）、向田A遺跡（21）、三光寺山遺跡（22）、八幡東遺跡（23）、神田遺跡（24）、跡部遺跡（25）、天神北遺跡（26）、伊勢町遺跡（27）、湯田一丁目遺跡（28）などがある。榎田遺跡（8）、音羽遺跡（12）、青沼遺跡（19）では弥生時代から平安時代までの集落が出土している。富士見遺跡（18）では古墳時代前期の水田跡が検出されている。また、榎田遺跡（8）では古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。

また塩部遺跡の北側の湯村山周辺、北西側の千塚地域では古墳時代後期の大型の古墳が多く確認、もししくは存在していたことが推定されている。6世紀中葉の築造と考えられ初期横穴式石室を持つ円墳の万寿森古墳（東西約31m、南北約38m、高さ約5m）（29）、6世紀後半の築造と考えられ石室全長16.75mという大型の横穴式石室を持つ円墳の加牟

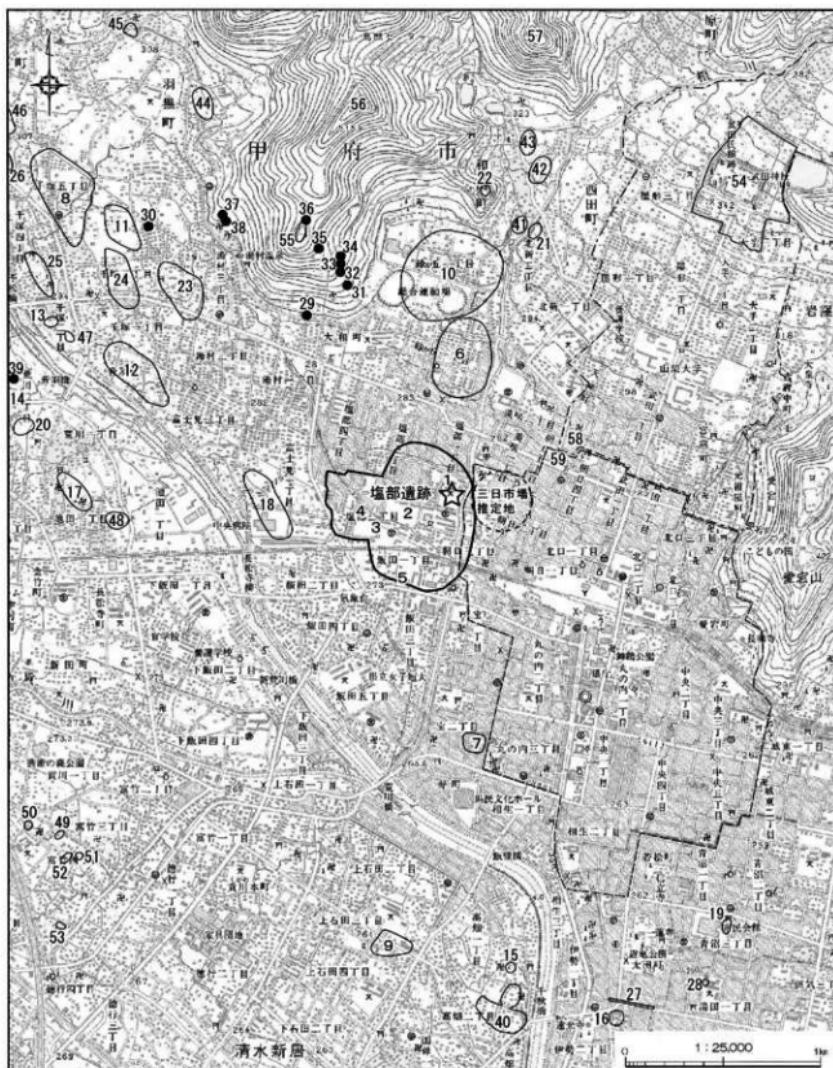


図4 塙部遺跡周辺の遺跡分布

- ★1 塙部遺跡(新日一小学校内)
- 2 塙部遺跡(16~7世紀?)
- 3 塙部遺跡(16~14年紀?)
- 4 塙部遺跡(16~14年紀?)
- 5 塙部遺跡(16~14年紀?)
- 6 絹が丘一丁目遺跡(新文~平安)
- 7 宝治遺跡(新文~平安)
- 8 稲田村上遺跡(新文~平安)
- 9 上石川遺跡(新文~平安)
- 10 絹が丘二丁目遺跡(新文~平安)
- 11 金霞西遺跡(新文~古墳)
- 12 番翁遺跡(新文~平安)
- 13 西大坂A遺跡(新文)
- 14 西大坂B遺跡(新文)
- 15 安井遺跡(新文~平安)
- 16 食文化工場遺跡(新文~平安)
- 17 稲田村上遺跡(新文~平安)
- 18 立見遺跡(古墳~平安)
- 19 美沼遺跡(古墳~平安)
- 20 幸沼遺跡(古墳~平安)
- 21 向田A遺跡(新文~古墳)
- 22 三光寺山遺跡(古墳)
- 23 八幡遺跡(新文~古墳)
- 24 畠山山遺跡(古墳)
- 25 畠山山遺跡(古墳)
- 26 天王山遺跡(古墳)
- 27 伊賀遺跡(古墳)
- 28 通田一丁目遺跡(古墳)
- 29 通田二丁目遺跡(古墳)
- 30 通田三丁目遺跡(古墳)
- 31 清水山遺跡(古墳)
- 32 清水山遺跡(古墳)
- 33 清水山遺跡(古墳)
- 34 清水山遺跡(古墳)
- 35 畠山山遺跡(古墳)
- 36 畠山山遺跡(古墳)
- 37 大平一等地(古墳)
- 38 大平二等地(古墳)
- 39 穴堀古墳(古墳)
- 40 秋山氏遺跡(古墳~中世)
- 41 村之内遺跡(古墳~平安)
- 42 美井遺跡(古墳~平安)
- 43 十二天遺跡(平安)
- 44 丸の内遺跡(平安)
- 45 丸の内遺跡(平安)
- 46 丸の内遺跡(平安)
- 47 鶴林寺山遺跡(平安)
- 48 鶴林寺山遺跡(平安)
- 49 鶴林寺山遺跡(平安)
- 50 鶴林寺山遺跡(平安)
- 51 南河原C遺跡(平安)
- 52 南河原D遺跡(平安)
- 53 村西遺跡(平安)
- 54 村東遺跡(平安)
- 55 金澤城(中世)
- 56 鶴林寺山(中世)
- 57 小松山の烽火台(中世)
- 58 武田城下町遺跡(中世)
- 59 幸浦城下町遺跡(近世)
- 60 幸浦城下町遺跡(近世)
- 61 幸浦城下町遺跡(近世)
- 62 幸浦城下町遺跡(近世)
- 63 幸浦城下町遺跡(近世)
- 64 幸浦城下町遺跡(近世)
- 65 幸浦城下町遺跡(近世)
- 66 幸浦城下町遺跡(近世)
- 67 西大阪B遺跡(平安)
- 68 前田遺跡(平安)
- 69 熊谷原A遺跡(平安)
- 70 熊谷原B遺跡(平安)
- 71 伊原山の烽火台(中世)
- 72 伊原山の烽火台(中世)
- 73 伊原山の烽火台(中世)
- 74 伊原山の烽火台(中世)
- 75 伊原山の烽火台(中世)
- 76 伊原山の烽火台(中世)
- 77 伊原山の烽火台(中世)
- 78 伊原山の烽火台(中世)
- 79 伊原山の烽火台(中世)
- 80 伊原山の烽火台(中世)
- 81 伊原山の烽火台(中世)
- 82 伊原山の烽火台(中世)
- 83 伊原山の烽火台(中世)
- 84 伊原山の烽火台(中世)
- 85 伊原山の烽火台(中世)
- 86 伊原山の烽火台(中世)
- 87 伊原山の烽火台(中世)
- 88 伊原山の烽火台(中世)
- 89 伊原山の烽火台(中世)
- 90 伊原山の烽火台(中世)
- 91 伊原山の烽火台(中世)
- 92 伊原山の烽火台(中世)
- 93 伊原山の烽火台(中世)
- 94 伊原山の烽火台(中世)
- 95 伊原山の烽火台(中世)
- 96 伊原山の烽火台(中世)
- 97 伊原山の烽火台(中世)
- 98 伊原山の烽火台(中世)
- 99 伊原山の烽火台(中世)
- 100 伊原山の烽火台(中世)

那塚古墳（直径約45m、高さ約7m）（30）などが代表とされる。その他にも積石塚で円墳の湯村山一号墳（直径約15m、高さ約2.5m）（31）、円墳の湯村山二号墳（直径約14.5m、高さ約5.5m）（32）、円墳の湯村山三号墳（直径約15.3m、高さ約2.5m）（33）、円墳の湯村山四号墳（直径約14.3m、高さ約2.5m）（34）、円墳の湯村山五号墳（直径約13m）（35）、円墳の湯村山六号墳（直径約10.4m）（36）、円墳の大平一号墳（直径約20m）（37）、円墳の大平二号墳（直径約15.9m、高さ約2.2m）（38）などがある。また塚部遺跡西側の荒川河畔にも穴塚古墳（39）がある。

山梨県内で3位の石室規模を誇る万寿森古墳（29）、2位の加牟那塚古墳（30）のほか多くの大型古墳が所在する本地域は、甲府盆地東部の御坂町井之上に所在する、県内で1位の姥塚古墳（6世紀後半築造、円墳、直径約40m、高さ約10m、石室全長17.54m）を代表とする錦生古墳群の地域とともに、甲府盆地を東西に二分する勢力が存在した地域といえる。

奈良・平安時代の遺跡として榎出遺跡（8）、音羽遺跡（12）、青沼遺跡（19）、平石遺跡（20）、秋山氏館跡（40）、村之内遺跡（41）、永井遺跡（42）、十二天遺跡（43）、天神平遺跡（44）、若宮前遺跡（45）、御藏遺跡（46）、西大阪B遺跡（47）、前田遺跡（48）、南河原A遺跡（49）、南河原B遺跡（50）、南河原C遺跡（51）、南河原D遺跡（52）、村西遺跡（53）がある。

中世の遺跡として秋山氏館跡（40）、武田氏館跡（54）、湯村山城（55）、法泉寺山の烽火台（56）、小松山の烽火台（57）、武田城下町遺跡（58）がある。近世の遺構として甲府城下町遺跡（59）がある。武田信虎の拠点移転以後、本地域が甲斐国の中心地としての役割を担うことになったといえる。

## 第2節 基本土層（図5）

基本土層は1Dグリッドの西壁で確認した。4層は近代以降の堆積である。5層は遺物包含層である。5層上面は1号溝の検出面である。その他の遺構は6層上面が検出面である。以下に各層の説明を記す。

- 表土 黒褐色10YR3/2シルト。しまり中。粘性弱。3~10mmの亜角礫10%を含む。
- 灰黄褐色10YR4/2シルト。しまり強。粘性強。1~5mmの円礫30%、5~15cmの円礫10%を含む。
- 黒褐色7.5YR3/1シルト。しまり中。粘性中。2~5mmの亜角礫7%、褐鉄鉱3%を含む。
- にぶい黄褐色10YR4/3シルト。しまり中。粘性弱。1~2mmの亜角礫1%、1mm位の金雲母片1%を含む。
- 黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。1~2mmの黄色土粒2%、1~3mmの亜角礫1%を含む。
- 黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。褐鉄鉱7%、1~2mmの黄色土粒3%、2~3mmの亜角礫1%を含む。
- 黒色10YR2/1粘土。しまり強。粘性強。褐鉄鉱20%、2~3mmの黄色土粒2%を含む。
- 黄褐色2.5Y5/6シルト。しまり強。粘性強。黑色粘土40%、1mm位の亜角礫10%を含む。
- 明黄褐色2.5Y6/8シルト。しまり強。粘性強。2~5mmの亜角礫5%を含む。
- 暗オリーブ色7.5Y4/3シルト。しまり強。粘性強。5~30mmの亜角礫7%を含む。

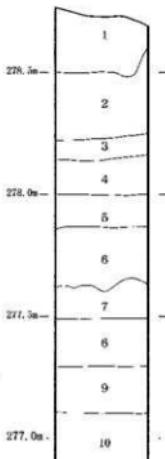


図5 基本土層

### 第3章 遺構と遺物

発掘調査では溝5条（1～4・6号）、井戸1基（1号）、ピット5基（1～5号）が検出された（図6）。5号溝は風倒木痕と判断し欠番とした。以下に各遺構を出土遺物とともに詳述する。

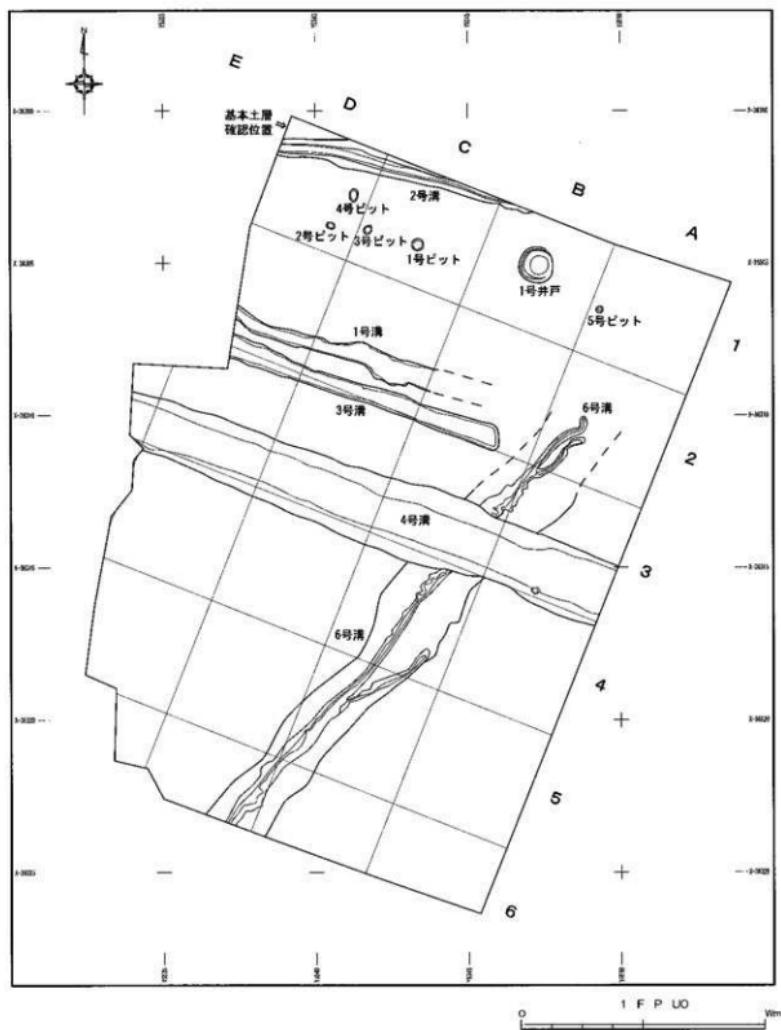


図6 調査区全体

## (1) 溝

### 1号溝 (図7、図版1・2)

1号溝は2B～2Dグリッドに位置する。検出範囲で長さ6.9m、幅0.4～0.8m、深さ0.1mである。西側は調査区外へ続き、東側は浅くなり途切れている。直線的な溝で方向はN-73°-Wである。

遺物1は平安時代の須恵器壺、2は平安時代の土師器壺である。3平安時代の土師器脚高台台基もしくは皿である。4は底部が台状となる平安時代の土師器皿である。5は平安時代の厚口口縁の土師器壺である。

1号溝は基本土層で5層とした遺物包含層を掘り込み形成されている。1号溝検出面である基本土層5層上面ではガラス片やビー玉などが出土している。また1号溝出土遺物はいずれも小破片である。このような状況から1号溝出土遺物の年代と遺構の年代とは必ずしも一致するものではないと考える。

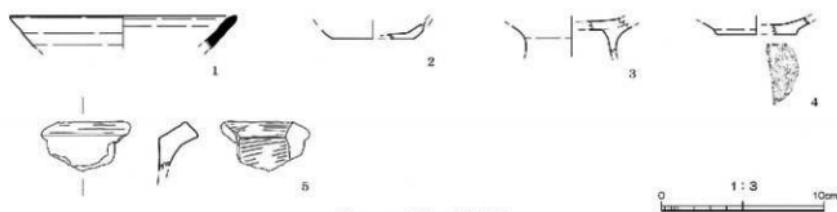
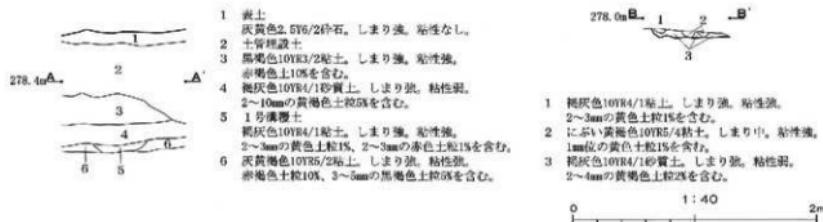
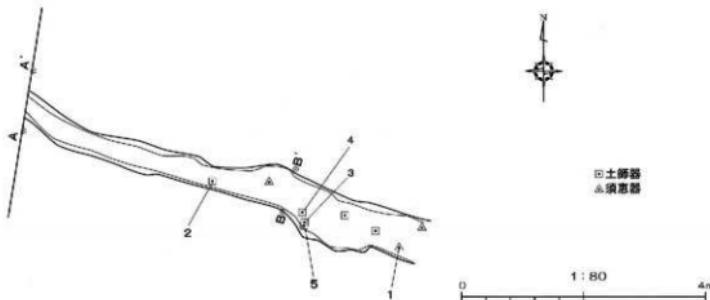


図7 1号溝・出土遺物

## 2号溝（図8、図版1・2）

2号溝は1B～1Dグリッドに位置する。検出範囲で長さ8.5m、幅0.6～1.0m、深さ0.7～1.0mである。断面形は下半部が長方形で上半部がV字状に開いている。西側、東側共に調査区外へと続いている。ほぼ直線的な溝で方向はN-78°Wである。

遺物1・2は古墳時代前期の土師器台付壺である。3は古墳時代中期の土師器甕である。4は古墳時代末の須恵器壺蓋である。5は古墳時代～奈良時代の須恵器短頸壺である。6・7は平安時代の土師器壺（甲斐型壺）である。8は平安時代の須恵器長頸壺（壺G）である。

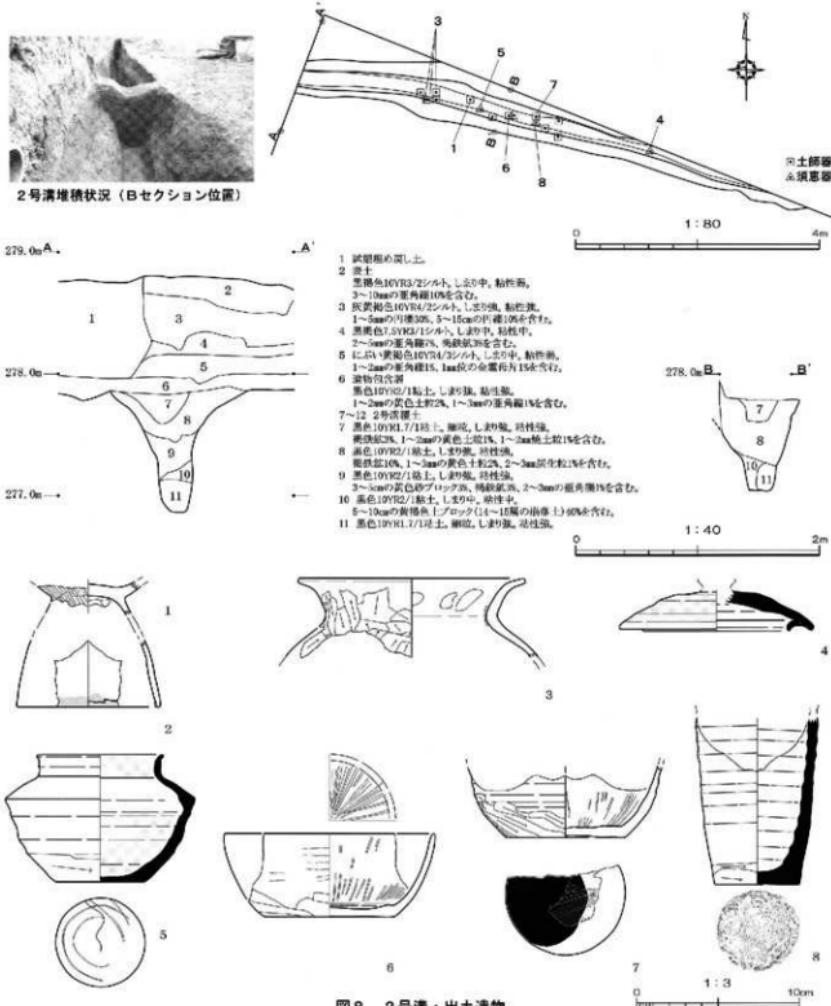
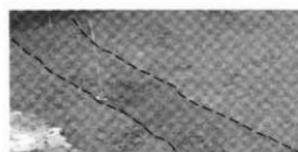
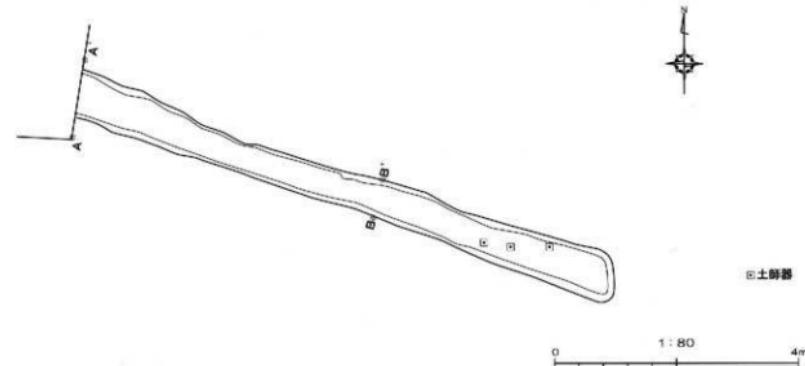


図8 2号溝・出土遺物

### 3号溝(図9、図版1・2)

3号溝は2B～2D・3Dグリッドに位置する。検出範囲で長さ9.3m、幅0.4～0.8m、深さ0.1～0.2mである。底面は平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ直線に北西から南東方向に伸びている。3号溝の伸びる方向は1号溝、2号溝、4号溝と並行している。西側は調査区外へ続いている。直線的な溝で方向はN-72°Wである。

遺物1は底部がやや台状の平安時代の土師器壺底部である。2は奈良・平安時代の土師器壺底部である。底部には回転糸切り痕が残る。3は奈良・平安時代の土師器壺口縁部である。4は奈良・平安時代の土師器壺または皿口縁部である。3号溝の遺物出土量はきわめて少なく、いずれも小破片である。



3号溝検出状況

277.9mA-

-A'

277.9mB-

-B'



3号溝堆積状況

1 鶴灰色10YR4/1シルト。しまり強。粘性強。  
1～2mmの赤褐色土粒15%、2～3mmの黄色土粒15%を含む。

0 1:40 2m

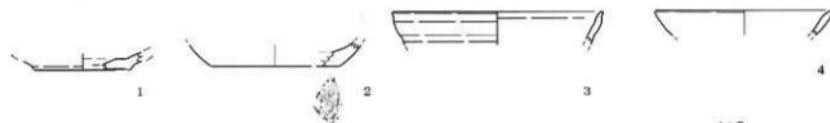


図9 3号溝・出土遺物

#### 4号溝（図10、図版1～3）

4号溝は3A～3E・4A～4Dグリッドに位置する。検出範囲で長さ16.7m、幅1.8～2.6m、深さ0.4～0.6mである。西側、東側共に調査区外へと続いている。直線的な溝で方向はN-70°-Wである。3Bグリッド付近で6号溝と交差し、6号溝の底面より深く掘り込み形成されている。4号溝の底面には砂層が堆積しており、流路であったことが考えられる。主な出土遺物には古墳時代から平安時代までの時代幅が認められる。遺物1は縄文時代中期～後期の深鉢形土器部片である。2は古墳時代後期の土師器高壺である。3～6は古墳時代の土師器壺である。7～10は平安時代の土師器壺、11は平安時代の土師器壺、12は土師器羽釜である。7には内外面に煤付着範囲が認められる。13～14は奈良・平安時代の須恵器壺、15・16は須恵器壺、17は須恵器壺である。18～21は平安時代の灰釉陶器塊、22は皿、23は手付瓶、24・25は壺、26は壺である。27は青磁碗、28は青白磁合子、29は白磁碗、30は陶器壺である。31・32は板状の木製品である。その他、自然遺物として種、穀が出土している。

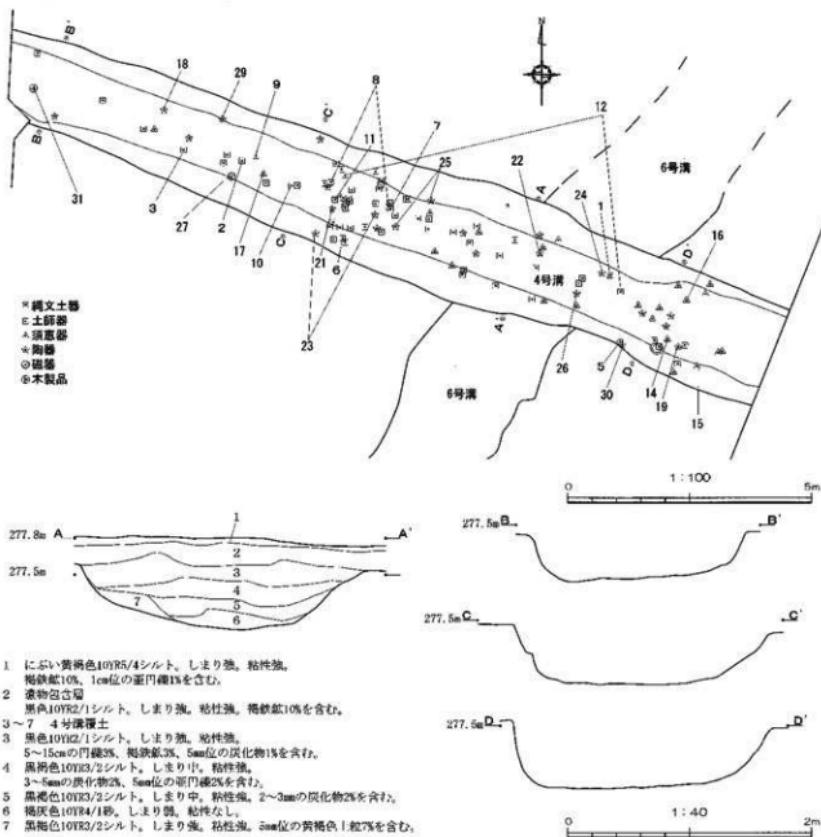


図10 4号溝

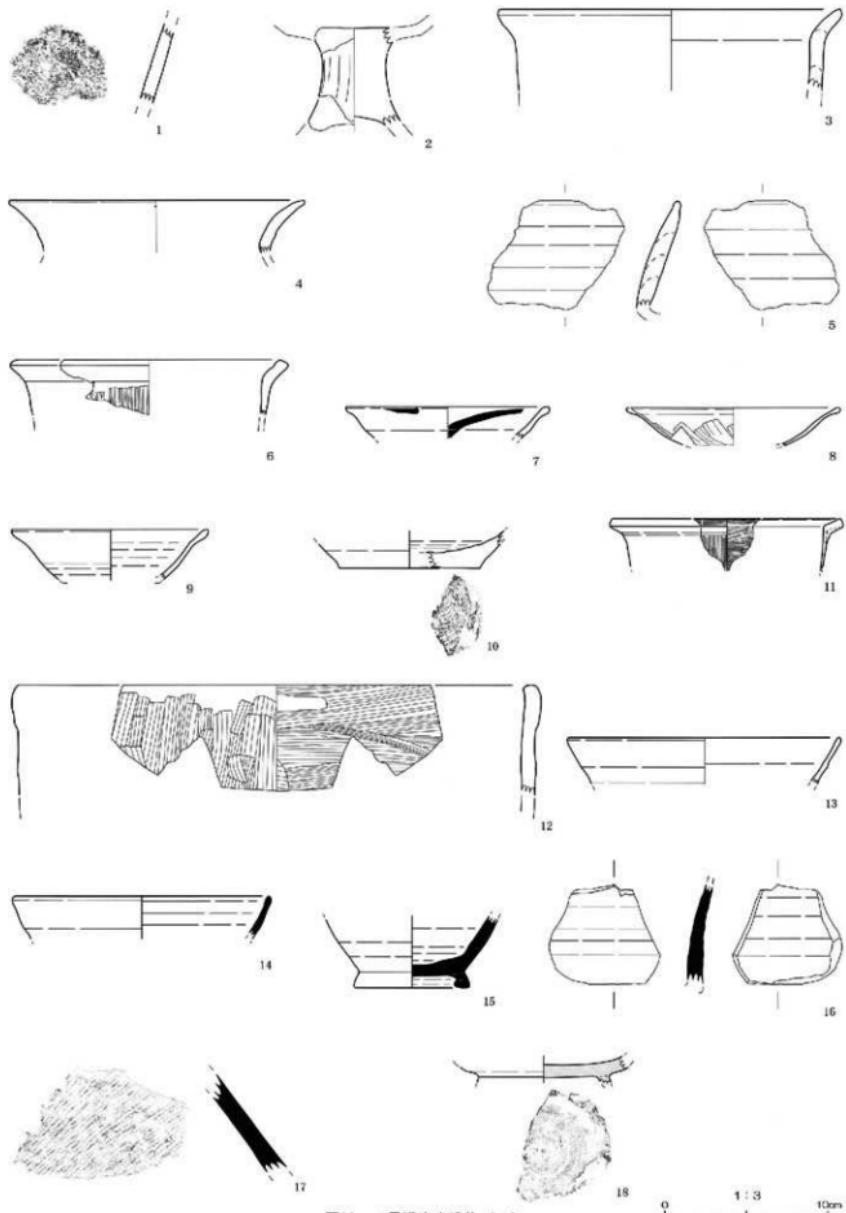


图11 4号沟出土遗物（1）

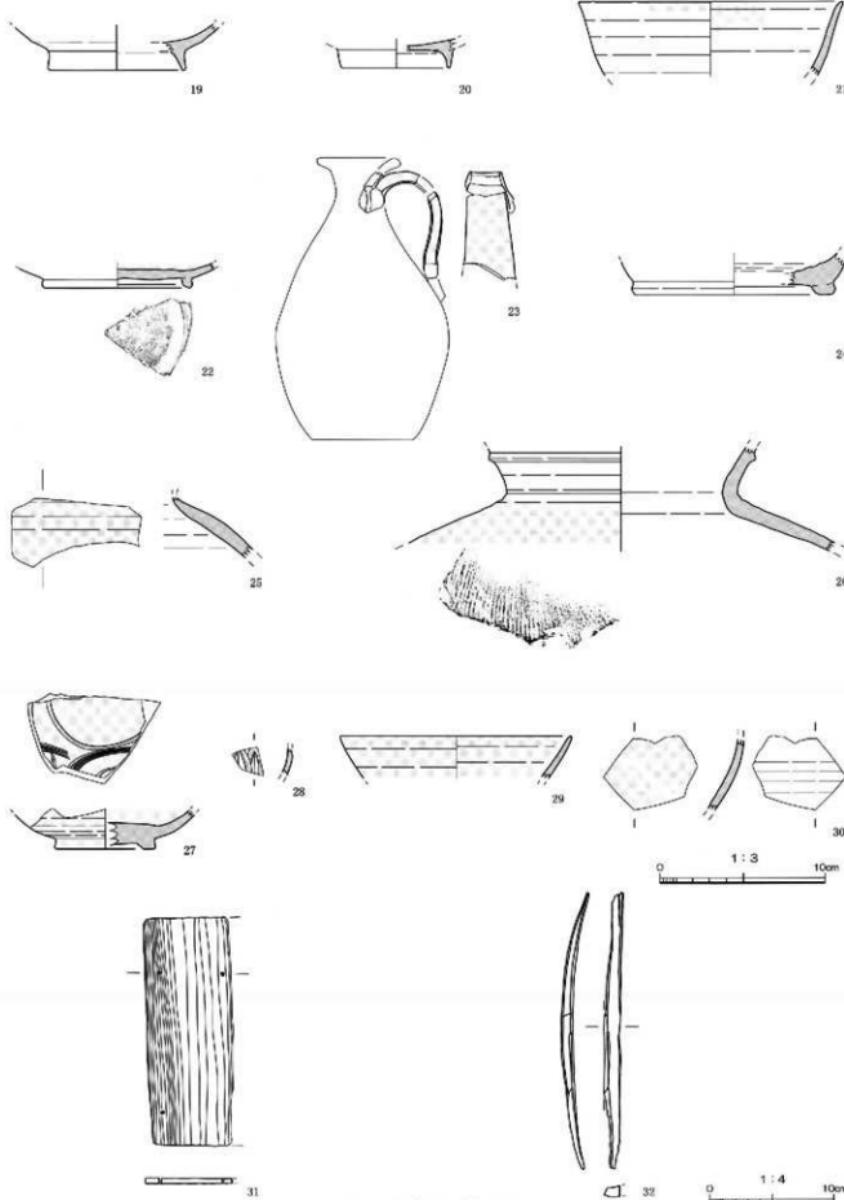
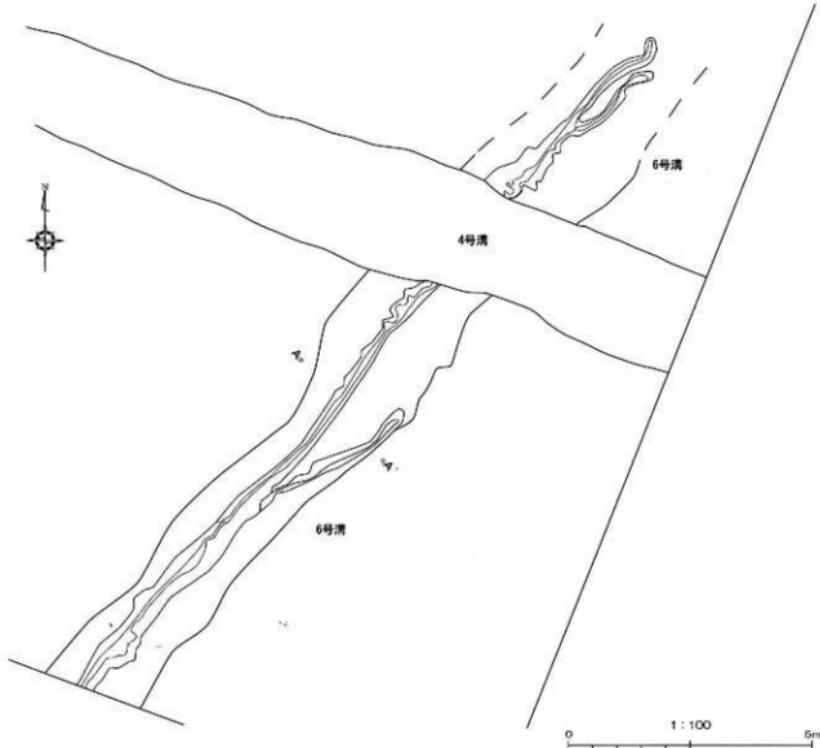


图12 4号清出土遗物（2）

### 6号溝（図13、図版1）

6号溝は2A・3A～3B・4B・5B～5C・6B～6Cグリッドに位置する。検出範囲で長さ17.8m、幅1.6～2.5m、深さ0.2～0.5mである。南側は調査区外へ続いている。北側は浅くなり途切れている。溝の方向はN-41°-Eである。遺構下端の平面形態には分岐のようなものが見られる。このため、断面形も不整形なものとなっている。遺構覆土には5～10cm大の亜円礫が多く含まれている。このような状況から6号溝は自然の流路である可能性が指摘できる。遺構の時期を特定できる遺物は出土していない。



6号溝堆積状況



1 黒色10Hz/1シルト。しまり中。粘性強。  
5～10cm位の亜円礫50%を含む。

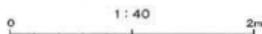
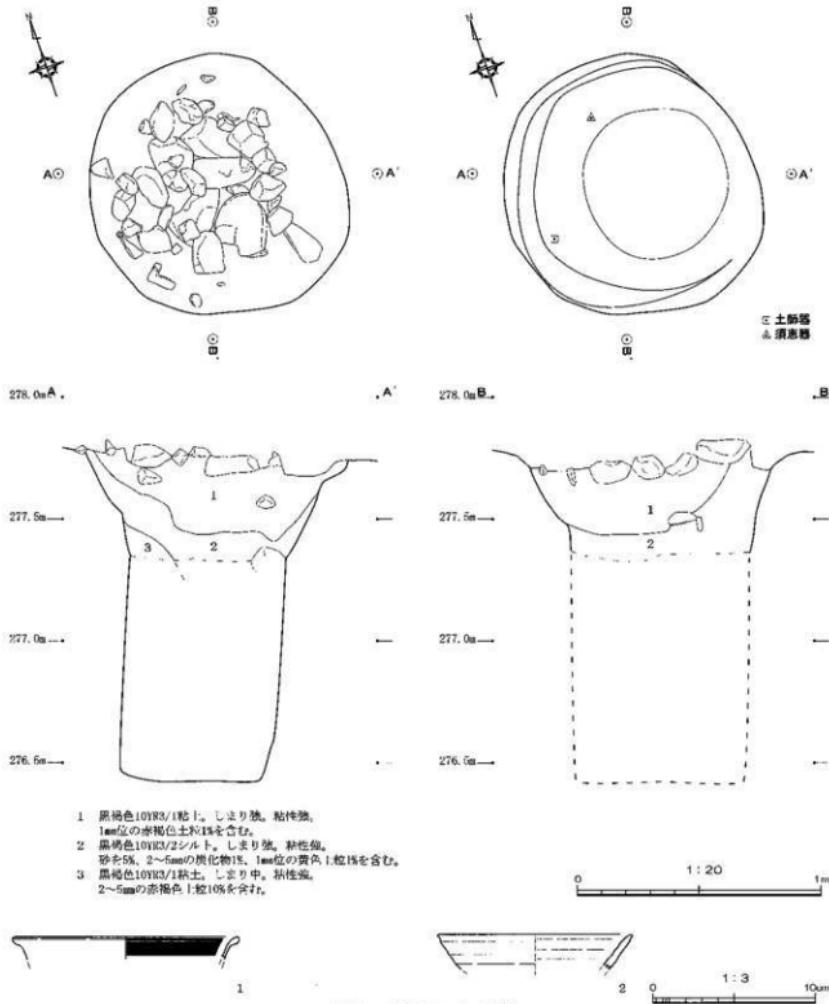


図13 6号溝

## (2) 井戸

### 1号井戸 (図14、図版1・3)

1号井戸は1Bグリッドに位置する。大きさは長軸1.1m、短軸1.0mの円形で、深さ1.4mである。覆土上面には礫が集中していた。上端から50cm以下では常に湧水が認められた。以上の状況から井戸と判断した。出土遺物は極めて少ない。底面からの出土遺物はなかった。遺物1は平安時代の土師器壺である。下縁口縁で、内面は黒色処理している。2は奈良・平安時代の土師器壺である。



### (3) ピット (図15)

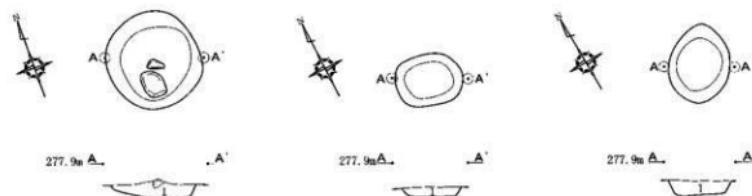
1号ピットは1Cグリッドに位置する。直径0.4mの円形である。深さ0.1mと浅く、残存状況は良くない。底面はほぼ平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層6層上面である。遺物は出土していない。

2号ピットは1Dグリッドに位置する。長軸0.3m、短軸0.2mの橢円形である。深さ0.05mと極めて浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層6層上面である。遺物は出土していない。

3号ピットは1Cグリッドに位置する。長軸0.3m、短軸0.25mの橢円形である。深さ0.05mと極めて浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層6層上面である。遺物は出土していない。

4号ピットは1Dグリッドに位置する。長軸0.4m、短軸0.3mの橢円形である。深さ0.05mと極めて浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層6層上面である。遺物は出土していない。遺構検出面は基本土層6層上面である。

5号ピットは1Aグリッドに位置する。直径0.2mの円形である。深さ0.15mと浅く、残存状況は良くない。底面は平らで、壁面急傾斜で立ち上がる。遺構検出面は基本土層6層上面である。遺物は出土していない。



1 黒褐色10YR3/1粘土。しまり中。粘性強。

2~3mmの黄色土粒2%を含む。

1号ピット

1 黒褐色10YR3/1粘土。しまり中。粘性強。

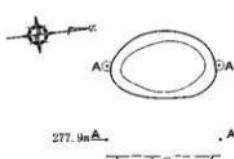
1~2mmの黄色土粒2%を含む。

2号ピット

1 黒褐色10YR3/1粘土。しまり中。粘性強。

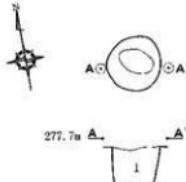
1~2mmの黄色土粒2%を含む。

3号ピット



1 黒褐色10YR3/1粘土。しまり中。粘性強。  
1~2mmの黄色土粒2%を含む。

4号ピット



1 黒褐色10YR3/1粘土。しまり中。粘性強。  
1~2mmの黄色土粒2%を含む。

5号ピット

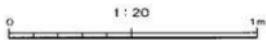


図15 1号～5号ピット

(3) 遺構外出土遺物 (図16~18、図版4)

主な遺構外出土遺物は遺構確認面の上にある遺物包含層から出土している。1は縄文時代中期～後期の深鉢形土器、2の黒曜石製石鏃は凹基有茎鏃で側縁先端部には段を有している。調査区外に設けた排土運搬用通路から出土している。3は石錐の可能性があるメノウ製の剥片である。4は古墳時代前期の土師器S字状口縁台付壺である。5～10は平安時代の土師器壺である。5の底部外面は外周がヘラ削りされ中央に回転糸切り痕が残存して

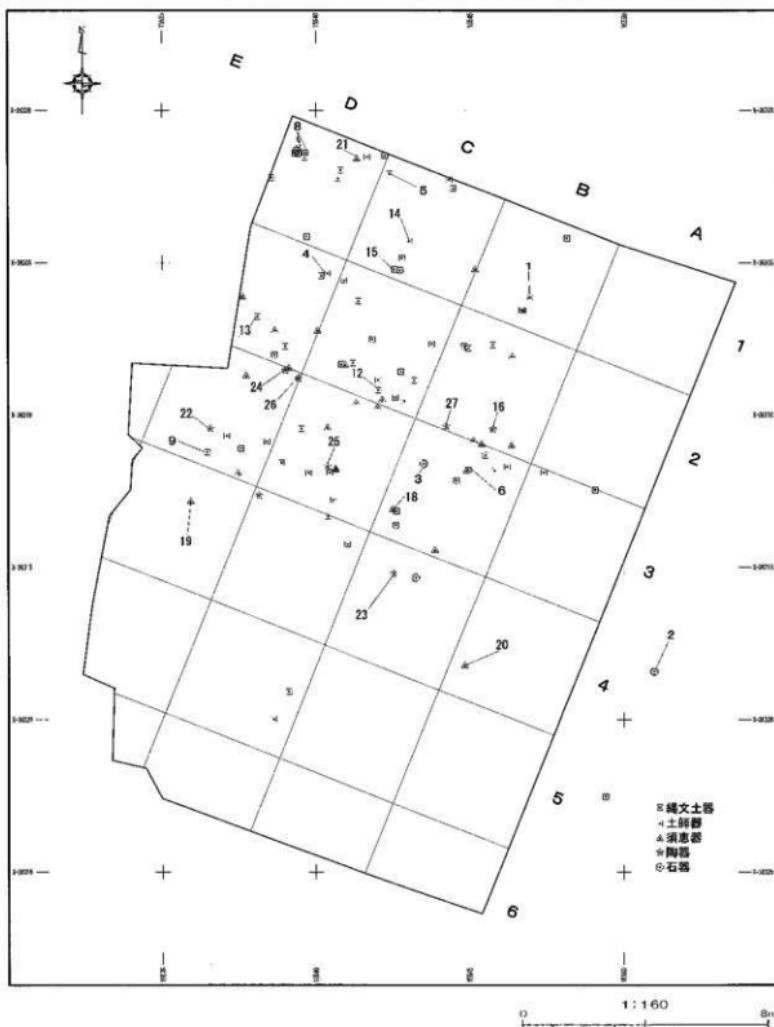


図16 遺構外出土遺物位置

いる。6の底部外面には不鮮明ながら微かに回転糸切り痕を確認することができる。10の底部外面には煤が付着している。11は平安時代の土師器高台付坏で体部と底部の内外面が黒色である。12は平安時代の土師器脚高高台坏または皿、13は平安時代の土師器小皿で底部外面に回転糸切り痕が残存している。14は土師器甕で外面に赤彩が施されている。15は平安時代の土師器羽釜の羽部である。16は奈良・平安時代の綠釉陶器で外面に貼り付けた粘土上に継方向の沈線のようなものが認められる。輪花の沈線ではなく、把手の貼り付け部のような類のものと思われる。17は奈良・平安時代の須恵器坏で底部外面に回転糸切り痕が残存している。18は須恵器壺の口縁部で全体に赤灰色を帯びている。19~21は須恵器甕である。19・20は外面に平行叩き目、内面に同心円叩き目を有している。20は外面の一部に自然釉がかかっている。21は外面に平行叩き目、内面にハケ目を有し、外面全面に自然釉がかかっている。22~24は平安時代の灰釉陶器壺、25は灰釉陶器壺または皿、26は灰釉陶器皿である。26は底部外面回転糸切り後、無調整のまま高台の周囲をナデて貼り付けている。27は古瀬戸陶器綠釉小皿で鉄釉が施されている。底部外面は回転糸切り後無調整である。28は土器内耳鍋の底部である。内面には炭化物が0.5mmの厚さで層状に付着している。29は近世磁器筒形碗で蛸唐草文の染付が施されている。内外面に破面に沿ってガラス質の焼繕剤が帯状に認められる。30は瓦質土器火鉢または焜炉類である。外面に煤が付着している。

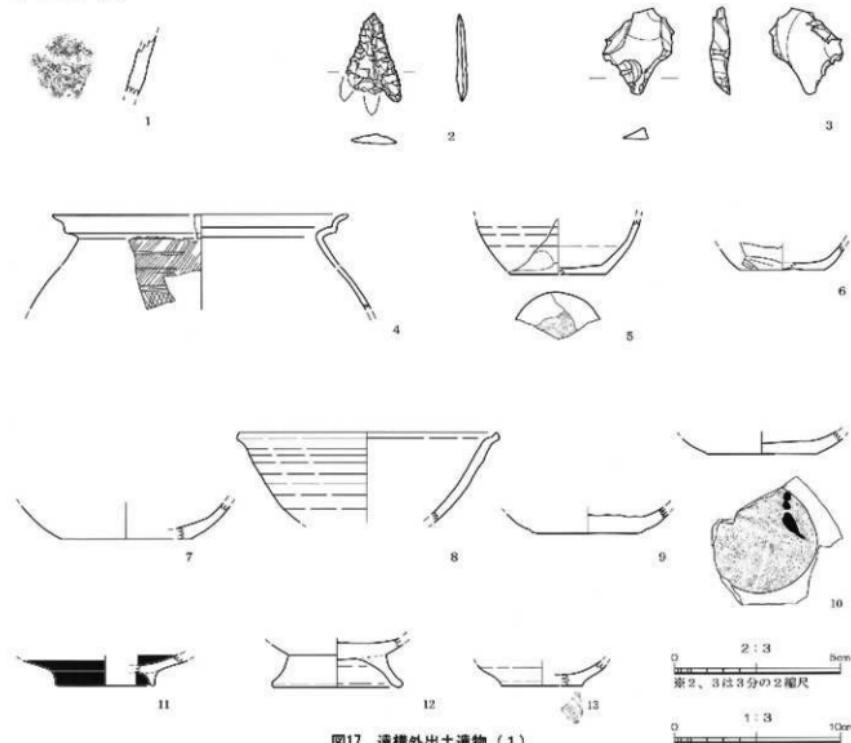
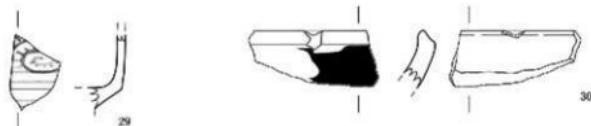
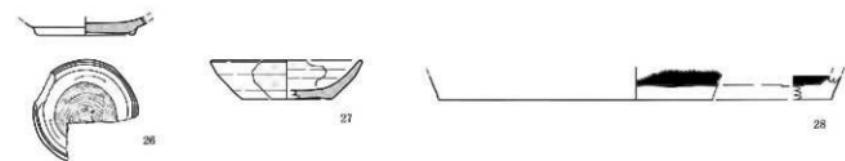
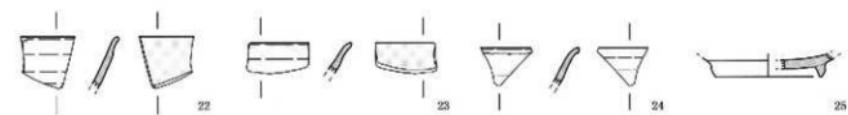
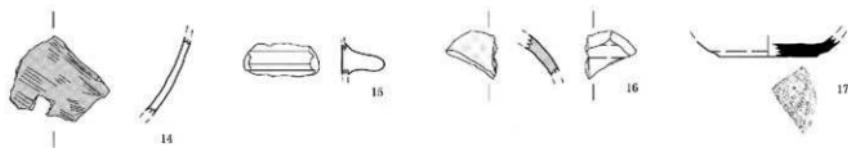


図17 遺構外出土遺物 (1)



0 1:3 10cm

圖18 退耕外出土遺物（2）

# 第4章 結語

## 第1節 遺構と遺物の検討

発掘調査の結果、溝5条（1～4・6号）、井戸1基（1号）、ピット5基（1～5号）が検出された。1号溝は浅く残存状況が悪い。遺物は平安時代の土師器が出土しているが遺構の時期決定を確実にするものとはいえない。2号溝は断面形に特徴があり、下半部が細長く、上部は緩い傾斜で開くラッパ状の形態である。出土遺物は古墳時代から平安時代の遺物が層位的な分離をせずに出土している。遺構の埋没時期は平安時代と考えられる。3号溝は浅く残存状況が悪く、奈良・平安時代の土師器が出土しているが遺構の時期決定を確実にするものとはいえない。4号溝は幅1.8～2.6m、深さ0.4～0.6mと大きく、底面には砂層が堆積している。縄文時代から中世の遺物が出土しているが、遺構の埋没時期は中世初頭と考えられる。6号溝は下端の平面形態に分岐が見られ、断面形も不整形である。覆土には5～10cm大の亜円礫が非常に多く含まれている。遺物から時期を決定できないが、4号溝よりは古い遺構である。1号井戸は出土遺物が少なく、平安時代の土師器の小破片がわずかに出土しているのみである。1～5号ピットは浅く残存状況が悪い。遺物は出土していない。

ここで各遺構の配置を検討すると、先ず1～4号溝は東西方向にほぼ並行していることが分かる。6号溝は他の溝に対して方向性が異なり、扇状地の地形に準じ北から南方向へ下り、隣接する相川の流れに並行している。溝は不整形な平面形状や、礫の多い覆土状況も併せ考え、6号溝は自然の流路と思われる。次に東西方向に延びる1～4号の溝は、朝日小学校北側の通りに並行している。この通りは江戸時代前期は甲州道中であったことが分かっており、近世以前から交通路として機能していたことが考えられ、特徴的な断面形の2号溝や、水の流れがあったことが考えられる4号溝など扇状地の傾斜に対して直行する溝は、この小学校北側の通りに並行して掘られた区画溝の可能性がある。1号井戸に関しては、小学校北側の通りと4号溝の間に集落が存在していたことを思わせる遺構である。

## 第2節 塩部遺跡における調査区

平成6年度以降の調査により塩部遺跡は、縄文時代から中世まで約5000年以上存続していたことが分かった。縄文時代については遺構が未検出であるため詳細は不明であるが、弥生時代から古墳時代にかけては、遺跡範囲の中央部（2）地点（現甲府工業）一帯から南側（5）及び西側（3・4）にかけて集落が形成されていたものと考えられる。

平安時代は文治二年（1186）の醍醐寺文献目録に「甲斐国巨摩郡塩部庄」と記載があり、各調査地点から遺構・遺物が検出されている状況から、大規模な集落が形成されていたものと推定される。調査区で検出された4号溝や12世紀代の遺物は、塩部庄の状況を示す查証であり、特に中国製磁器の出土は、富裕層や町屋が存在していたことを窺わせる。

中世は塩部郷であり、試掘調査では14世紀前半代の常滑焼の出土した。16世紀代には調査区東側の相川左岸の現朝日2・3丁目周辺に三日市場が設けられ、塩部郷の中心はこの三日市場近辺に移動したこととも考えられる。

近年京都大学で発見された17世紀代の甲府城下町の絵図に、一里塚と「古三日市場」の記述がみられ、調査区北側の東西の通りが江戸時代初期の甲州道中であったことが判明した。この調査区周辺は古代から信州方面へ向かう交通の要所であったことが考えられ、今後の発掘調査により実態が解明されるであろう。

図No.	遺物名	種別	基部	口縁	底面	部位	色調	焼成	胎土	備考	
1-1 T-1	灰陶 上断器	S字状口縁 台付器	—	—	口縁部	褐色7.5YR6/6	良	石灰、長石、金雲母、 赤色粒子を含む。	4C中葉～5C前葉		
1-2 T-5	灰陶 陶器	甕	—	—	口縁部	内面赤褐色10YR1/3 内面(自然釉)灰オリーブ色7.5Y6/2	良	—	常滑。13C～14C/a		
1-3 T-6	灰陶 土師器	环 (黑色土器)	—	(6.0) (0.9)	口縁部～底部	内面黒色2.5Y6/1 外面黒色10Y2/1	良	やや緻密。赤色粒子、 石英を含む。	底部外側回転終り。9C後半～10C後半。		
7-1 1号溝	陶器	环	(14.0)	—	(2.0)	口縁部～本部	灰色5Y6/1	良	—	8C後半	
7-2 1号溝	土師器	环	—	(5.0) (1.1)	底部	橙色3YR8/6	良	やや緻密。赤色粒子、 石英を含む。	8C後半～10C後半		
7-3 1号溝	土師器	丸太付 脚高台付	—	—	(2.3)	底部～脚部	褐色5YR7/6	良	赤色粒子を含む	10C後半～12C	
7-4 1号溝	土師器	直	—	(5.0) (1.0)	底部	褐色5YR8/8	良	赤色粒子、長石を含 む。	底面糸引り。11C後半～12C。底輪台付。		
7-5 1号溝	土師器	甕	—	—	(2.5)	口縁部	褐色5YR8/6	良	石英、長石、金色雲母 を含む。	内面焼成面の少しき日、外面上は不明で不 明。肩口口縁。10C後半。	
8-1 2号溝	土師器	台付甕	—	—	(1.8)	底部	[にぶ]青黄色10YR7/3	良	赤色粒子、長石を含 む。	外側ハケ目。表面ナメ。9C後葉～10C前葉。 8-2-2回一回。	
8-2 2号溝	土師器	台付甕	—	(8.8) (4.1)	脚部	[にぶ]青黄色10YR7/3	良	石英、長石、金雲母を 含む。	脚部未焼成内側一面引。3C後葉5C前 葉。8-2-2回同一個体。		
8-3 2号溝	土師器	甕	(14.0)	—	(4.9)	口縁部～颈部	明赤褐色5Y7/5/6	良	赤色粒子、石英、長 石、金雲母を含む。	脚部外側焼成ナメ。脚部内側一面引。9C後半。	
8-4 2号溝	陶器	环蓋	(12.0) —	(1.3)	口縁部～本部	内面明褐色7.5YR2/1 外面(自然釉)オリーブ色灰青色10Y5/2	良	—	7C後葉～8C四半世紀		
8-5 2号溝	須恵器	丸須蓋	(7.6) (11.6)	5.5 6.8	口縁部～底部	内面赤褐色10Y4/2 自然釉範囲オリーブ色灰青色10Y4/2	良	—	脚部未焼成内側一面引。3C後葉5C前 葉。8-2-2回同一個体。		
8-6 2号溝	土師器	坏	(13.0)	8.0 5.1	口縁部～底部	褐色5YR8/6	良	やや緻密。赤色粒子、 石英を含む。	脚部外側一面引。8C後半。		
8-7 2号溝	上断器	环	—	7.4 (4.4)	口縁部～底部	褐色5YR8/6	良	やや緻密。赤色粒子、 石英を含む。	脚部外側一面引。8C後半。		
8-8 2号溝	須恵器	長颈甕	—	5.2 (10.2)	体筋～底部	内面火褐色7.5YR5/2 外面体部灰黑色5Y5/1 底面灰白色	良	—	内部外側下部が底筋付近は無強度。9C前半。		
9-1 3号溝	土師器	环	—	(6.0) (8.0)	底部	褐色5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	11C前半～11C後半		
9-2 3号溝	土師器	坏	—	(1.5)	底部	褐色5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	底面糸引。奈良・平安時代。		
9-3 3号溝	土断器	环	(13.0)	—	(1.6)	口縁部～本部	褐色7.5YR2/6	良	赤色粒子を含む。	奈良・平安時代。	
9-4 3号溝	土師器	环または直	(11.0)	—	(1.5)	口縁部～本部	褐色7.5YR7/6	良	赤色粒子を含む。	奈良・平安時代。	
11-1 4号溝	須恵器	深鉢	—	—	—	体部	[にぶ]黄褐色10YR7/4	良	石灰、長石を含む。	編文時代中期～後期	
11-2 4号溝	土師器	高坏	—	(6.3)	脚部	[にぶ]黄褐色7.5YR7/4	良	—	外面へ刷毛。6C後半。		

数値の単位はcm。( )内数値は復元値、< >内数値は現存値。

数値の単位はcm。( )内数字は後元値、< > 内数字は現行値。

回No.	種類名	種別	器種	口径	前部 底深	器高	部位	色調	施成	胎土	備考
11-3 4号溝	土師器	甕	(21.4)	—	<5.0>	口縁部~体部	内面に沿う黄褐色10YR4/3	良	石灰、長石を含む。	古墳時代	
11-4 4号溝	土師器	甕	(18.0)	—	<3.2>	口縁部	内面黒褐色10YR3/4	良	長石、石炭を含む。	古墳時代	
11-5 4号溝	土師器	甕	—	—	—	口縁部	橙褐色5YR7/4	良	長石、石炭を含む。	古墳時代	
11-6 4号溝	土師器	甕	(17.0)	—	<3.4>	口縁部~体部	内面褐色5YR6/6	良	長石、石灰、長石を含む。	古墳時代	
11-7 4号溝	土師器	甕	(12.4)	—	<2.0>	口縁部~体部	内面褐色5YR6/6	良	赤色粒子を含む。	古墳時代	
11-8 4号溝	土師器	甕	(13.0)	—	<2.3>	口縁部~底部	橙色5YR8/6	良	赤色粒子を含む。	古墳時代	
11-9 4号溝	土師器	甕	(12.0)	—	<3.1>	口縁部~体部	内面褐色5YR8/6	良	赤色粒子を含む。	古墳時代	
11-10 4号溝	土師器	甕	—	(6.8)	<2.3>	底部	内面灰褐色5YR4/2	良	金属性、石灰を含む。	古墳時代	
11-11 4号溝	土師器	甕	(28.0)	—	<6.4>	口縁部~体部	外面部N1.5/	良	長石、石灰を含む。	古墳時代	
11-12 4号溝	土師器	甕	(32.0)	—	<6.7>	口縁部	内面褐色5YR6/6	良	長石、石灰を含む。	古墳時代	
11-13 4号溝	須恵器	甕	(16.6)	—	<2.8>	口縁部~体部	灰色3Y6/1	良	—	古墳時代	
11-14 4号溝	須恵器	甕	(15.6)	—	<2.6>	口縁部~体部	灰色2.5Y7/1	良	—	古墳時代	
11-15 4号溝	須恵器	甕	—	(7.0)	<4.4>	体部~底部	内面青灰色5PB7/1	良	—	古墳時代	
11-16 4号溝	須恵器	甕	—	—	—	体部	内面灰白色5PB6/1	良	—	古墳時代	
11-17 4号溝	須恵器	甕	—	—	—	体部	外面部灰7.5Y7/8/1	良	—	古墳時代	
11-18 4号溝	灰釉陶器	甕	—	—	<1.7>	底部	灰白色N//	良	—	古墳時代	
12-19 4号溝	灰釉陶器	甕	—	(8.4)	<2.8>	体部~底部	灰白色N//	良	—	古墳時代	
12-20 4号溝	灰釉陶器	甕	—	(6.4)	<1.8>	底部	灰白色N//	良	—	古墳時代	
12-21 4号溝	灰釉陶器	甕	(16.0)	—	<1.6>	口縁部~体部	内面灰白色N//	良	—	古墳時代	
12-22 4号溝	灰釉陶器	甕	—	(9.0)	<1.6>	底部	内面(灰釉)オリーブ色7.5Y5/2	良	—	古墳時代	
12-23 4号溝	灰釉陶器	手付甕	—	—	—	口縁部	内面(灰釉)オリーブ色7.5Y5/2	良	—	古墳時代	
12-24 4号溝	灰釉陶器	長颈瓶	—	(12.0)	<2.1>	底部	灰白色N//	良	—	古墳時代	
12-25 4号溝	灰釉陶器	甕	—	—	—	体部	内面灰白色N//	良	—	古墳時代	
12-26 4号溝	灰釉陶器	甕	—	<6.4>	—	瓶部~肩部	外面部灰白色N//	良	—	古墳時代	
							施釉範囲白7.5Y7/1	良	—	古墳時代	

測定番号	遺物名	種別	器種	口径	縦幅	直径	深さ	部位	色調	焼成	胎土
12-27 4号拂	青磁	碗	—	(6.0)	<2.4)	体部～底部	内外面アーチ灰色10Y5/2	良	—	高台削出し、体部内面にヘチ緑による刷毛文が施される。同安窯系。12C以前。	
12-28 4号拂	白青白磁	合子	—	—	—	体部	内面灰白色AN/ 面触感強化区含BR/	良	—	体部外面糞手彫。中国製。	
12-29 4号拂	白磁	碗	(14.0)	—	<2.7)	口縁部～小部	外山青白灰色SBG7/1	良	—	中西製。	
12-30 4号拂	陶器	壺	—	—	—	体部	内面(無釉)灰褐色6N/と 厚白芯と5Y7/1の焼痕 (底土質灰色2.5V7/2) 外面(鉛釉)灰オーブ色7.5V5/2	良	—	内面無釉。	
12-31 4号拂	木製品	板	長さ 幅	19.8 <7.0)	厚さ 幅	0.48 <1.0)	—	—	—	穴ニヶ所あり。直径2mm。	—
12-32 4号拂	木製品	板か	長さ <22.7)	幅 <1.4)	厚さ <1.0)	—	—	—	—	—	内面黒色處理。口縁端部外反、肥厚。9C後半～10C前半。
14-1 1号土瓶	土瓶	壺	(11.0)	—	<1.4)	口縁部	内面黑色7.5Y6/2)1 外山(2.5V6/1)2 厚白芯と5Y6/5	良	—	奈良・平成時代。	
14-2 1号土瓶	土瓶	壺	(12.0)	—	<2.1)	口縁部～体部	内面(2.5V6/1)3 外山(2.5V6/1)2	良	—	四輪車蓋端。片方の脚部と中蓋が折損。側板先端部に脚を有する。飛文時代輪端か、奈良・平成時代。	
17-1 遷拂外	編文土器	深鉢	—	—	—	体部	内面(2.5V6/6	良	石英、長石を含む。	石英、長石を含む。	
17-2 遷拂外	石器	石織	幅 <2.2)	幅 <1.7)	重畳 0.3 (0.89g)	—	—	—	—	石材黒曜石	石英、長石を含む。
17-3 遷拂外	石器	鉢片	最大径 2.7	最大厚 2.0	重畠 0.6	—	<5.4)	口縁部～体部	に5Y1褐色7.5V6/4	良	石英、金雲母、石英を含む。
17-4 遷拂外	土師器	合付壺	(18.0)	—	(5.8)	<3.4)	体部～底部	緑色5Y6/6	良	石英、金雲母、石英を含む。	
17-5 遷拂外	土師器	壺	—	—	(5.0)	<1.6)	体部～底部	に5Y1褐色7.5V6/4	良	石英、金雲母、石英を含む。	
17-6 遷拂外	土師器	壺	—	—	(8.0)	<2.3)	体部～底部	内面明赤褐色5V6/8 外面褐色5Y6/6	良	石英、金雲母、石英を含む。	
17-7 遷拂外	土師器	壺	—	—	(16.0)	<5.4)	口縁部～体部	明赤褐色5Y6/8	良	石英、金雲母、石英を含む。	
17-8 遷拂外	土師器	壺	—	—	(6.2)	<1.7)	体部～底部	橙色5Y4/6	良	石英、金雲母、石英を含む。	
17-9 遷拂外	土師器	壺	—	—	6.6	<1.3)	体部～底部	に5Y1褐色10Y6/4	良	石英、長石、赤色粒子含む。	
17-10 遷拂外	土師器	壺	—	—	(6.0)	<1.8)	体部～底部	黒色10Y6/1	良	石英、長石、赤色粒子含む。	
17-11 遷拂外	土師器	高台付壺	—	—	(6.0)	<1.8)	体部～底部	黒色10Y6/1	良	石英、長石、赤色粒子含む。	

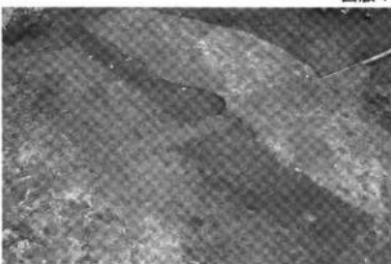
数値の単位はcm。( )内数字は復元値、< >内数字は残存部。

数値の平均値はcm、( )内数値は標準偏差、< > 内数値は現存値。

図No.	記載名	種別	触角	口器	足	脚輪	底盤	器軸	部位	色調	地成	胎土	備考
17-12 遊標外 十脚器	脚輪底台杯 または 脚輪底台皿	—	(8.0) <3.0>	底部	内面にこぶし、淡褐色 外面橙色Y17R6.5	良	赤色粒子を含む。	底部内面、高台内面ナデ。10C後半～11C後半。					
17-13 遊標外 小皿	—	(5.0) <1.5>	体部～底部	褐色5YR6.6	良	赤色粒子を含む。	体部外側後脚切。底部外側後脚切。10C前半～12C。						
17-14 遊標外 土師器	甕	—	—	体部	内面橙色5Y7R6.6	良	長石、石英を含む。	体部外側後脚切。調整後が多。					
17-15 遊標外 土師器	羽釜	—	—	体部羽羽	明赤褐色2.5YR5.6	良	長石、石英を含む。	10C前半～11C後半					
17-16 遊標外 綠仙陶器	瓶	—	—	体部	内面墨褐色5YR7.2 外面(深褐色)オーバーパン色10R5.2	良	—	内面は墨色、外面は平滑時代。	内部の沈殿あり。奈良、平安時代。				
17-17 遊標外 深窓器	片	—	(6.0) <0.9>	底部	灰色5Y6/	良	—	底部内面ナデ。8C後半～9C前半。	外側内面にナデ。				
17-18 遊標外 深窓器	甕	—	—	口縁部	赤褐色5R6.1	良	—	外側内面に凹印き目。	内面凹印き目。奈良、平安時代。				
17-19 遊標外 深窓器	甕	—	—	口縁部	普褐色5P6.1	良	—	外側内面に凹印き目。	内面凹印き目。奈良、平安時代。				
18-20 遊標外 深窓器	甕	—	—	体部	内面青灰色3E6.1	良	—	—	—				
18-21 遊標外 須恵器	壺	—	—	体部	外曲線10E6.6	良	—	外側内面に凹印き目。内面ヘケ目。外曲線面に自然剥がれる。	外側内面に凹印き目。内面ヘケ目。外曲線面に自然剥がれる。				
18-22 遊標外 灰釉陶器	壺	—	—	口縁部	2.5G7.1	良	—	—	—				
18-23 遊標外 灰釉陶器	壺	—	—	口縁部	内面(灰釉)切口アーブル色2.5G7/1	良	—	9C後半～11C前半	9C後半～11C前半				
18-24 遊標外 灰釉陶器	壺	—	—	口縁部	内面(灰釉)白色2/1	良	—	—	—				
18-25 遊標外 灰釉陶器	壺	—	—	口縁部	内面(灰釉)白色2/1	良	—	—	—				
18-26 遊標外 灰釉陶器	壺	—	—	口縁部	内面(灰釉)白色2/1	良	—	—	—				
18-27 遊標外 脚輪器	脚輪小皿	(9.2)	(5.4) 2.4	口縁部～底部	褐灰色10NW1/	良	—	底部外側後脚切。後半高台をナデてハリツガ。10C前半～10C後半。	底部外側後脚切。後半高台をナデてハリツガ。				
18-28 遊標外 内耳上器	—	(24.0) <1.8>	体部～底部	内面(炭化物)黑色N1.5/5YR4.3	良	—	体部外側後脚切。後半高台をナデてハリツガ。10C前半～10C後半。	底部外側後脚切。後半高台をナデてハリツガ。10C前半～10C後半。					
18-29 遊標外 磁器	脚形模	—	—	体部～底部	—	良	—	—	—				
18-30 遊標外 五竈土器	火鉢型炉	—	—	口縁部～底部	灰色N5/	良	—	—	—				



1. 調査区全景（北東から）



2. 1号溝完掘状況（南東から）



3. 2号溝完掘状況（東から）



4. 2号溝遺物出土状況（南西から）



5. 3号溝完掘状況（北東から）



6. 4号溝完掘状況（北東から）

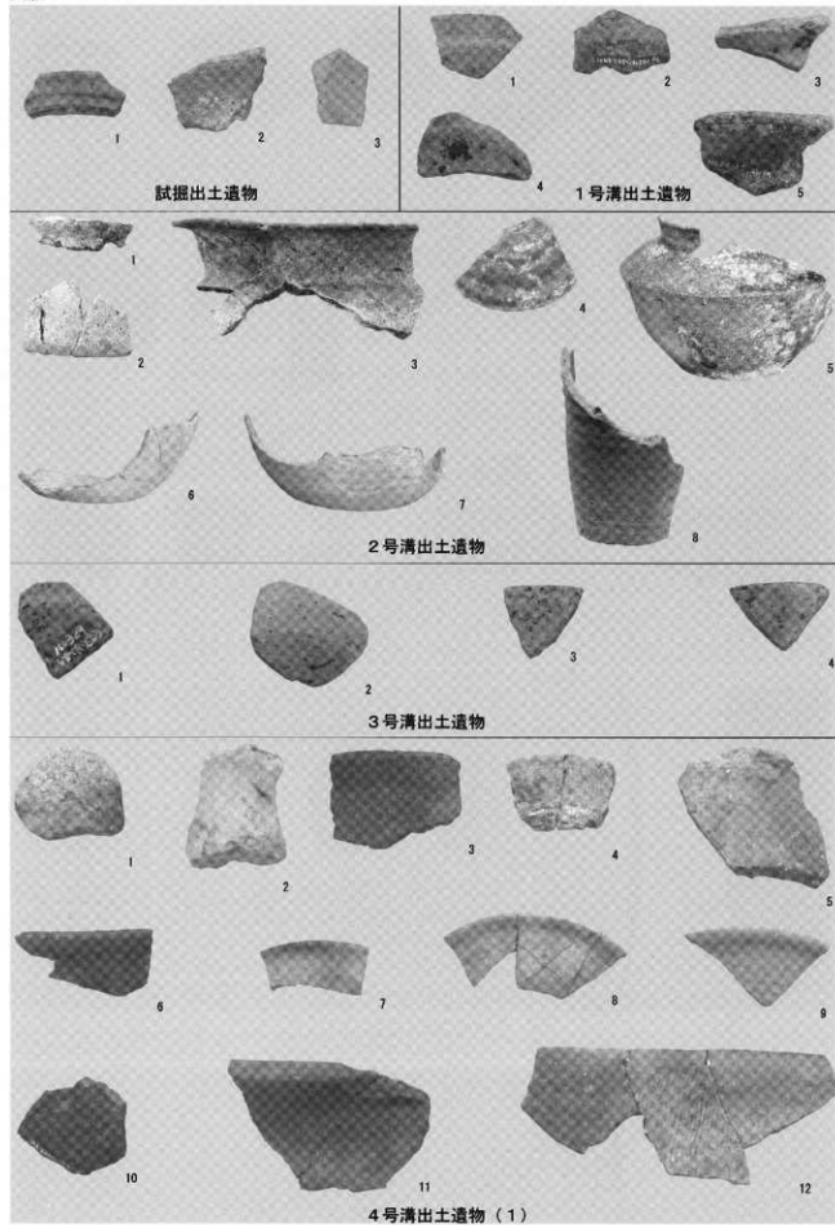


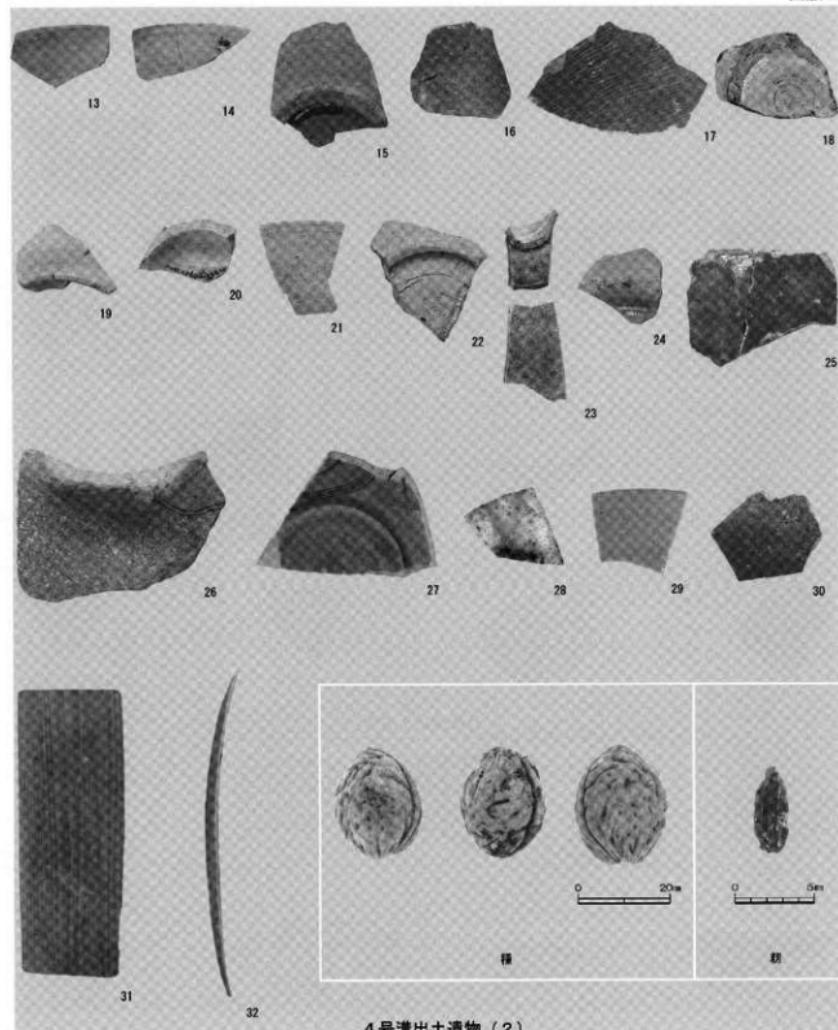
7. 6号溝完掘状況（南西から）



8. 1号井戸完掘状況（東から）

圖版2



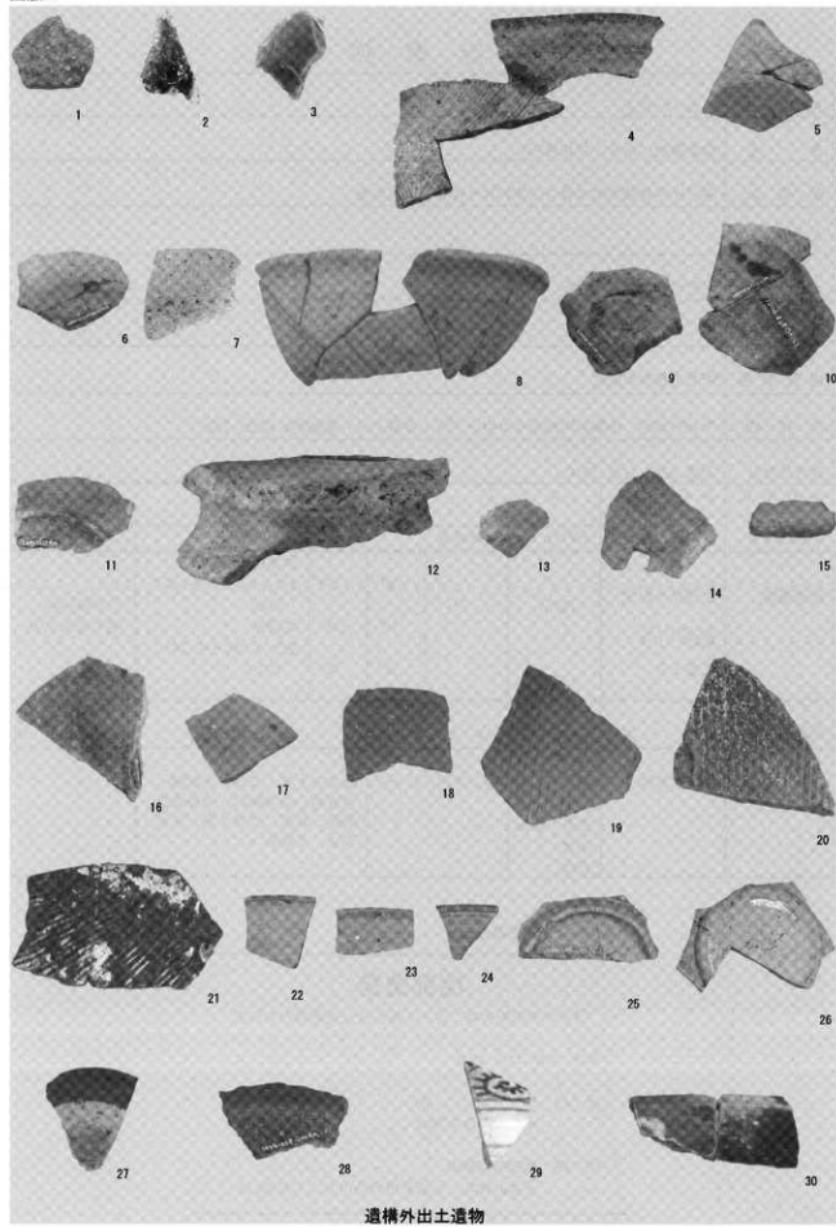


4号溝出土遺物（2）

1号井戸出土遺物



図版4



遺構外出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	しおべいせき					
書名	塩部遺跡（朝日小学校構内）					
副書名	朝日小学校校舎建て替え工事に伴う発掘調査報告書					
卷次						
シリーズ名	甲府市文化財調査報告					
シリーズ番号	53					
編集機関	甲府市教育委員会					
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話055(223)7324					
発行年月日	平成22年11月19日					
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号		調査面積	
塩部遺跡	山梨県甲府市 塩部一丁目 4番1号	19201	74	35° 40' 21"	138° 33' 40" II21.8.8~8.12 22m <sup>2</sup> 本調査 II22.2.22~4.24 430m <sup>2</sup>	小学校校舎 建て替え工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
塩部遺跡	散布地	縄文 古墳 奈良・平安 中世 近世	溝、井戸、ピット	縄文式土器、石器、土師器、須恵器、縄釉陶器、灰釉陶器、陶器、磁器、中世土器、瓦質土器、木製品		

## 甲府市文化財調査報告53

### 塩部遺跡

— 朝日小学校校舎建て替え工事に伴う発掘調査報告書 —

平成22年11月19日

発行 甲府市  
甲府市教育委員会

印刷 諸内田印刷所  
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

